

午後 1 時30分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。それでは定刻の時間となりましたのでただいまより 8 月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初に、お知らせを 2 つ申し上げます。

まず第 1 点。記者クラブの方に異動がありました。本日初めてこの会見に参加されます方を紹介させていただきます。NHK の副島様でございます。副島様、一言ごあいさつお願いいたします。

【記者】 NHK の記者の副島と申します。今まで嶺南で宗石が担当させていただいたんですけれども、宗石のかわりに、このたび敦賀のほうに着任しました。生まれは北海道で、今まで住んだところで一番南なんですけれども、先週までは福井にいたんですけれども、また福井市とはちょっと違った感じのすごいすてきなまちで、ここの話題を一生懸命報道させていただければと思います。よろしく申し上げます。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

さらにもう 1 点。敦賀高校の学校の先生でおられます音楽の専攻の高嶋由弥さんという方が、今日は学校の先生の社会体験の研修ということで RCN さんと同行されております。幹事社さんの了解をいただきましたので会見に同席をさせていただきたいと思っております。ご了解をお願いしたいと思います。

それでは、会見を始めさせていただきます。

本日の会見につきましては、お手元の次第のとおり最初に市長のあいさつ、その後事業発表いたします。質問につきましては、最初に事業発表についてお願いしたいと思います。その事業発表に係る質疑終了の後に次第の 3 番目、フリーの質疑応答へと進行したく思っております。なお、終了は午後 2 時30分を予定いたしておりますので皆さん、よろしくご協力をお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしく願いいたします。

【市長】 大変暑い夏になりまして、多くの観光客の皆さん方もお迎えできているのかなというふうに思っております。夏というのは非常に短いなというふうに感じておりますが、今年は例年に比べると梅雨明けも早く、いい夏になっているんじゃないかなというふうに期待もいたしております。

ただ、残念なのはベスト 8 に敦賀の高校が 3 校も夏の高校野球大会福井県予選で残ったのですが、最終的にはどこも敦賀の高校が行けなかったということで、ちょっと寂しい思いをしておりますけれども、福井商業には福井県の代表として頑張っていたきたい、このようにも思っております。これに甲子園がありますと一層燃えて、敦賀市民にとっては楽しい夏になったんじゃないかなというふうに思っております。

後ほどまた発表しますけれども、花火大会等の PR もしながら進めておりますけれども、安全の中に多くの皆様方に楽しんでいただけるものにもしていきたいと思っておりますし、お祭りもだんだん近くなってまいりました。市民が心をつなげて、そういうものを楽しんでいただきながらまちづくりにいろんな面で協力をしていただくことを願いながらごあいさついたします。

それでは、座って事業発表をさせていただきます。

お手元にお配りしてあるとおりで、とうろう流しと大花火大会でございます。今回、市民の有料席というものも設けたということでございまして、年々多くの皆さん方に来ていただいておりますし、余りたくさんの方が来過ぎるといって変でありますけれども、それぐらい定着もしてまいりましたところでございます。警備面につきましては、やはり明石事故を教訓としながら、今万全の体制で臨んでいるところでございますけれども、これにつきましてもより一層気を引き締めながら安全の中で多くの皆さん方に楽しんでいただけるものにしていきたい、このように思っております。

お手元のほうに日時、また時間等、例年とほぼ一緒でございますけれども書かせていただいておりますので、またよろしく願い申し上げます。

続きまして、防災訓練であります。これは総合防災訓練ということであります。8 月 29 日、雨天決行で行いたいというふうに思っておりますが、これは毎年そうでありますけれども、大地震が発生したという想定のもとで実施をいたします。今回、市役所のすぐ近く

にあります松島中央公園で開催をいたします。これも記載してございますとおり、総合的ないろんな観点、医師会のご協力、また地域のご協力、またボランティアセンターというものも今立ち上げて、いざというときに備えることも社会福祉協議会を中心で行っております。また、今回初めて防災士というのが誕生しましたので防災士も防災のリーダーとして参加をする予定でございます。細かいことにつきましては、お手元に配付の資料のとおりであります。

次、3点目、防災情報受信機の各戸配布でございます。

これはご承知のとおり、何かあったときにいち早く市民の皆さん方にその情報をお知らせするというものでありますけれども、これまでRCNのアナログチューナーの緊急告知機能につきましては機器の経年劣化もありますし、ご承知のとおり来年からはデジタル化ということでございますので、そういうことで、これは今年1月に運用を停止いたしております。そういう観点からそれのかわりということで、緊急告知機能付きのFMラジオ、これは申し込みがあった各世帯に今月の下旬、8月7日より順次無償で配布をする予定でございます。ぜひ、まだ半分ぐらいいし申し込みがないということでございますので、早く申し込みをしていただきまして、それぞれのご家庭に1台は置いていただきたい、このように思っているところでございます。

私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました3項目について質問を賜りたいと思います。

最初に、幹事社、お願いします。

【記者】 初めて防災士が生まれたということなんですけれども、この防災士というのはどういった役割を果たす人なんでしょうか。

【市民生活部長】 地域の防災士の資格を取るのに平成19年度から敦賀の地域防災会というところから補助金を出しております、それで旅費とかそういう費用負担を補助を出しております、地域での防災、例えば地域でのリーダーになってもらうということで、要するに防災の訓練とか、それから実際に何か起きたときのチームのリーダーとなって、避難の指導とか、それから避難所の中でのリーダーとか、そういうふうになってもらうために養成した。今現在、13名おります。

【記者】 一般の人ですか。

【市民生活部長】 はい、一般の人でございます。

【記者】 花火大会なんですけれども、今年の入り込み目標というのはどれぐらいなんでしょうか。

【市長】 目標というのはとりわけ立てておりませんが、例年も21万人前後来ておりますので、それぐらいは来てくれるんじゃないか。ただ、今回、曜日がちょうど月曜日ですから、お盆休みで月曜日は休んでいるところが多いと思いますが、そういう関係で少し、例えば、これが土日になりますとまた数も増えますので、そういう意味では例年並みぐらいになるんじゃないかなと思っております。

【記者】 先ほど、市長は明石の事故を教訓に警備面強化というふうに言っていましたけれども、これいつも、かなり帰りのシャトルバスとかの運行というのが混雑するということなんですけれども、今年何かそのあたりで対策とか対応変更みたいなことは、何かあるんでしょうか。

【市長】 明石以降、警備等は十分やっておりますけれども、なかなかあれだけの数が来ますので確かに込み合うというようなこともございます。

【企画政策部長】 帰りのシャトルバスの件でございますが、なるべく1回目で多く輸送したいということを考えてございまして、当初に去年より多くの送迎用のバスを市役所に集めまして、台数は、ちょっと今覚えていないのですが、去年以上にバスを集めて1回目で多くの人を運動公園まで送る計画を立ててございます。

【広報広聴課長】 それでは、各社にお伺いします。今の発表項目につきまして質問のある方、挙手をお願いしたいと思います。

発表項目につきましてないようでございますので、続いて次第の3番目、フリーの質疑

応答へ行きたいと思います。

これも最初に幹事社からお願いいたします。

【記者】 先日、前原大臣が新幹線について、北陸については厳しい発言もあったと思うんですけども、敦賀まで延伸ということも含めて市長はこの発言についてどうお考えでしょうか。

【市長】 本来ですと、この夏ごろまでにどうなるかという結論が出るというように聞いておりましたけれども、それも今のところ出ずということで非常に残念に思っておりますし、この北陸新幹線といいますのは、私、いつも言っておりますけれども、もちろん私も敦賀にとって、福井県にとって、北陸地方にとって必要な1つの交通インフラではありますが、国家にとって私は非常に大事な路線だと思っております。

前回の記者会見でもお話ししたかもしれませんが、要するに、東海地震、東南海地震というのはもう20年以内にかかなりの確率で起きるといわれている昨今の中で、やはり東海道新幹線の代替ルート、その中には道路もあるという話もございましたけれども、やはり高速鉄道という役割というのは非常に大きなものがございます。リニアという話もありますけれども、入り口なり出口が抑えられてしまえば役に立たないということは、もう承知のとおりでありまして、そういう観点から国家としていち早く、この北陸新幹線をつなげて国家のためにやりたいんだという思いを、私は政府自身がしっかりと認識をすべきでありますし、そういう観点が少し欠如しているんじゃないかなというふうに大臣の発言に対しましては感じるところでありまして、ぜひ、国家として北陸新幹線を一日も早く大阪までしっかりとつなぐ、このことを大事であるということを確認していただいて、そうならば当然地元がこうすべきだ、ああすべきだということじゃなくて、国が福井県に対していち早くつきたいので協力をしてくれというスタンスに立っていただくのが一番いい形だと思っております。そういう観点で、ぜひまた国等にも今後ともしっかりと働きかけをして北陸新幹線の国家としての重要性などを訴えていきたいなと思っております。

【記者】 先日、知事が大臣のほうに訪問をされましたけれども、市としてそういった具体的な動きという予定は何かありますか。

【市長】 これは県とともに動くんですけども、恐らく今月中にまたそういう関係のところには要望に行く日程になっておりまして。

8月9日に上京する予定であります。アポイント的なことはまだ決まってないようですけども。

【記者】 先日、交付金の交付団体に敦賀市が23年ぶりになったという発表ありましたが、市長がああときコメントは出されておりましたけれども、財政力強化、そのあたり具体的に例えばこういうふうなことで取り組んでいくようなお考えというのはございますか。

【市長】 財政的には確かに交付団体ということになりましたので、交付金をちょうだいするわけでありまして、やはり、必要なものは必要でありますし、節約するところは節約をしながらしっかりと財政運営をやっていけるというように思っております。

恐らく、この交付団体の時期もそう長くないというふうに、私どもはいろんな将来展望、政策を含めた点での、今までの市政運営をやる限りの中では、交付団体というのは長く続かないように私は思っておりますけれども、やはりこの時期は厳しいわけでありまして、そういうことを市民の皆様方にもご理解をいただいて、例えば政策的にどんどん進めるということも少しいろいろ立ち止まって考える必要もあろうし、そういう点で財政運営についてはより厳しくしっかりとやっていきたいなと思っております。

【記者】 コメントの中でもあったと思うんですけども、今、市が進めている施策に関して今回交付団体になったということが大きく影響するということは考えておられるんですか。

【市長】 そのことにつきましては、全くないというように思っています。

【広報広聴課長】 それでは、各社、質問ありましたら挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【記者】 先ほどとの絡みでして、当初予算のときに、そもそも交付税ゼロということで

組んでましたよね。どこから財源を引っ張ってきたかというのは、3・4号機の電源三法交付金の結構前倒しというか、まだ建設が始まってないですけども先にもらうような形で、そこで財源を工面して税収の落ち込みをそこら辺でカバーして交付税ゼロというところで組んでいたと思うんですが、結果として1億弱入ってくるということで、結果的にはこれはどうなるんですか。

【総務部長】 結果的にどうなるということではございませんで、電源三法交付金の関係につきましては、今年度着工の予定でございましたので本交付が今年度から始まったということで、その部分を考慮して予算に組み入れさせていただいております。

それに合わせまして、今回ゼロで普通交付税については見ておりましたが、その分が約9,000万円ほど来るということでございます。

【記者】 とすると、単純に当初の見込みどおり予算は組めてましたと。だけど、帳簿上の関係で、算定上の関係で9,000万円入ってきますと。ということは、その9,000万円というのは、ある意味、要は市にとっていうと予想よりもたくさんもらえるという、そういうことになるわけですか。

【総務部長】 税収自体が下がってくるということで、そういうものを考慮して予算上は組ませていただいております。

そういった中で9,000万円はプラスしてくるのかと言われると、確かにプラスしてくる形にはなります。

【記者】 とすると、どっちかというと財政が厳しいからというよりは、いわゆる計算方法の違いという、そういうことなんですよ。要は、税収の落ち込みというのは当初の段階である程度わかっていて、そこら辺は3・4号機の電源三法交付金も活用してということでしたか組んでいたはずなんで、どちらかと言えば、本来なくてもよかった9,000万円が入ってくるということになるんですか。

【総務部長】 全体としてはプラスマイナスゼロぐらいかなと考えております。と言いますのは、税収が減になる部分もございまして。

【記者】 先ほどの質問でも出ましたけれども、前原大臣が新幹線の件でちょっとなかなか厳しいなというようなことを言われまして、そういうふうになりますと敦賀駅舎のバリアフリー化工事の件についてなんですが、新幹線が来ないというケースですと4メートルの通路のほうのプランというのがたしか出ていたと思うんですけども、そちらのほうでこれは進めていくというふうなことになっていくのでしょうか。

【副市長】 そういう点も含めて、今月中にはきちっと報告ができるように整理いたします。新幹線問題は今月中に結論が出るということだったんですけども、今の状況の中で出にくい状況になってますから、そういうことも想定しているんなケースの中からこうしたいということを説明したいと思えます。8月11日に駅周辺整備検討委員会をやる予定ですから、そういう流れをきちっと報告できるようにしたいと思えます。

【記者】 ちょっと間があきましたけれども、参議院選挙の感想、結果の感想と、それから今後いろいろな政策要望していかれると思うんですが、今年の夏と比べてどのように変えていこうと思っておられるのか。

【市長】 今回の選挙は、これはもう国民、県民、市民の皆さん方が判断をされて決まった結果でありますので、その民意をしっかりと政府として受けとめて国家のために、また国民、市民、県民のために頑張っていただきたいというふうに思います。これは国民が選んだ結果だと思っております。

それと、少し民主党さんのほうも地域戦略局ということで、私どもお願いに、土曜日にお伺いしておりましたけれども、そのあたり少し変わったような感じもしますけれども、でも、やはり政府は今、民主党でありますので、また民主党の先生方にいろいろお願いをしながら敦賀市としての要望を、また政策実現のためにお力をいただきたい、このように思っております。

【記者】 国土交通省ばかりで申しわけないですが。

明日、国土交通省のほうで港の整備のことについて正式に発表があるようですけども、そのことについて、多少前倒しではありますができる範囲でコメントいただきたいのと、もし明日正式に出ましたら、市民、県民に対してどのような態度の表明をされるのか、も

しよければ教えてください。

【市長】 明日正式決定でありますので、今日は何と言っていいかわかりませんが、例えば重点港湾等に選定されれば大変ありがたいことだと思いますし、そのことを一つのはずみとして今後とも敦賀港の振興に十分頑張っていきたいです。また、そういうことを選定されましたら、選定されたということを十分にPRもしながら、また敦賀港の利用促進にもそれぞれの、県内を含め、また近隣の県のそういう企業の皆様方にもご利用いただけますように、一つのいい材料にもなりますから、頑張っていきたいなと思っています。

【広報広聴課長】 ほかにありますでしょうか。

ないようでしたら、8月定例記者会見はこれにて終わりたいと思います。

ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後1時53分 終了